

岡山県理学療法士(協)会
代議員立候補者

定 数 : 7 名

立候補者数 : 8 名



氏名 国安 勝司

都道府県士会 岡山県

年齢 55

勤務先名称 川崎医療福祉大学



氏名 横山 暁大

都道府県士会 岡山県

年齢 44

勤務先名称 岡山医療技術専門学校

協会・士会役員歴

平成3年度～11年度	岡山県理学療法士会	理事
平成12年度～24年度	岡山県理学療法士会	副会長
平成12年度～現在	日本理学療法士協会	代議員
平成23年度	中国ブロック理学療法士学会	学会長
平成25年度～現在	岡山県理学療法士会	会長

協会・士会役員歴

平成15年～平成19年	一般社団法人	岡山県理学療法士会	北支部支部長
平成19年～現在	一般社団法人	岡山県理学療法士会	理事
平成28年～平成29年	公益社団法人	日本理学療法士協会	代議員

立候補の趣旨

平成12年度より岡山県の代議員を務めてまいりました。その間に会員数が急激に増え、協会は10万人、岡山県士会も約2,000名の団体となりました。会員の増加は組織として大きな力と成り得ますが、急増による質の低下の問題が生じており、教育、育成方法など解決しなければいけないことが山積しています。診療報酬に関しても社会保障費の上限が設定されている中で、10万人もの会員の理学療法に係る費用を確保することが難しいのは容易に想像できます。また、2025年の地域包括ケアシステムの構築までに、我々の存在価値を高め、質の高い理学療法を提供できるようにしなければなりません。このためには、各自治体との密接な関係を築けるよう積極的な活動が必要となります。このような状況において、理学療法士の利益擁護と理学療法の充実のために、協会活動を支援することと同時に、地方会員の声の代表として、岡山県と協会を結ぶことが重要であると思います。20年以上にわたり岡山県理学療法士会の理事として活動をしてまいりましたので、県内の状況は把握しているつもりです。再度代議員としてその役目を務めさせていただければ幸いです。

立候補の趣旨

平成28年・29年と代議員として活動させていただきました。この2年間で、岡山県士会の皆様の意見や要望を中央へ届けることが、今まで以上に重要と考えるようになりました。今後の理学療法士の方向性も視野に入れながら、協会と岡山県士会会員の皆様との懸け橋になれるよう活動を行って参りたいと思いますので、よろしく願いいたします。



氏名 出口 仁

都道府県士会 岡山県

年齢 49

勤務先名称 倉敷市立児島市民病院

協会・士会役員歴

平成20年～平成25年 岡山県理学療法士会理事・特別研修会担当部長
平成22年～現在 日本理学療法士協会代議員
平成25年～現在 岡山県理学療法士会理事・学術局長

立候補の趣旨

現職代議員として7年間、政治力も必要である、という信念に基づき、協会現執行部の方針を支持してきました。
士会の仕事を通じて知り合い、手を貸して下さった方々をはじめ、20～30歳代の若い方々、社会人を経て第2のキャリアとして理学療法士を選択してくれた方々など、数ある職種の中から理学療法士という職業を選んでくれた仲間が、将来の不安や日々の生活の心配をすることなく、理学療法士の仕事に活き甲斐を感じられる社会を目指します。地位向上のために一緒に勉強し、行動しましょう。



氏名 谷中 則之

都道府県士会 岡山県

年齢 42

勤務先名称 岡山市立せのお病院

協会・士会役員歴

平成29年6月～現在 岡山県理学療法士会 理事

立候補の趣旨

本年は診療報酬と介護報酬の同時改定や、地域包括ケアシステム構築に向け、世の中のしくみが大きく再編する、まさに転換期を迎えようとしています。それに伴い、我々理学療法士を取り巻く環境も激変することが予想されます。このような背景から、各種関係団体が、熾烈な生き残りをかけて戦っている今日において、日本理学療法士協会の役割も年々大きくなっています。現在、日本理学療法士協会の会員数は10万人を越えています。このような大きな組織であっても、会員一人ひとりの存在が非常に重要です。しかし、会員個人のレベルに目を向けると、特に若手会員を中心とする協会離れが、非常に重大な問題となってきました。しかし、それは協会の必要性を理解していないからではなく、協会と各会員間の距離の遠さを感じている方々が多いからではないでしょうか。そのため今後、協会をより身近に感じてもらうためにも、協会と会員の間には何らかの「つなぎ」の存在が必要です。近年、医療業界全体が社会保障費抑制の観点から、非常に厳しい時代を迎えています。このような時代だからこそ、会員全体が一致団結することが出来ないと、関係省庁からは見放され、関係他団体にはすぐに置いていかれてしまいます。これはまさに、決して他人事ではない、今そこに迫る危機なのです。このような時代において、我々は何をすべきでしょうか？その答えは結束し、そして声を上げることです。声を上げて、我々の力と無限の可能性を世の中にアピールしていくことが大切です。会員個人で発する声は小さな声かもしれませんが、皆が結束し、協会を通して声を上げることで、何かが変わるかもしれません。誰かが協会からのメッセージを正しく説明し、現場の声である各会員の声を協会に届け、そして社会へ向けてその声を発してゆく必要があります。この双方向の関係性が非常に重要であり、その関係性を築くためには、やはり何らかの「つなぎ」の存在が必要です。私が岡山県を代表して、各会員と協会をつなぐ、地域と理学療法士をつなぐ、次世代の明るい未来を繋ぐ、そのような架け橋になれるよう、微力ではございますが尽力する所存でございます。何卒皆様のご理解ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



氏名 藤長 武士

都道府県士会 岡山県

年齢 35

勤務先名称 瀬戸内記念病院

協会・士会役員歴

無し

立候補の趣旨

理学療法士数の増加にて、理学療法士の活躍の場は、医療のみならず企業や福祉分野での活躍も目覚ましく、あらゆる場面で理学療法士の名を聞きます。特に若手が最初から福祉分野での現場を盛り上げ、改定の波が激しい中で一生懸命に頑張っているという声も聞かれます。地域包括ケア支援事業につきましても、国政に沿って各県士会も総力を上げて意欲的に参加されています。しかしながら、経験の偏りや専門性の偏りから現場レベルでの連携に疑問を持たれているという声を耳にすることが増えてきました。日常業務以外での活動では、所属先など様々な協力と理解のうえで成り立っていますが、システム構築においては個々の高い専門性だけではなく様々なシーンにおける対応経験と実績を有することに加え、他者の発言を尊重し統合できるコミュニケーション能力が大切であると日々教えていただいております。また、現場レベルでは、「お散歩PT」「なっっちゃってPT」と言われ、他職種に留まらず同職者からも近年のリハビリテーションにおける質を疑問視され、職域問題に加え、“人”対“人”であるリハビリテーションに大切な信用の低下が懸念されています。いま一度、我われ若手の意識改革の為にも、若手が何を考え、何を信念にリハビリテーションを行っているのか理解し、議会に反映できるようにしていきたいと考えます。そして、専門性ばかりを重視するのではなく、領域を越えて幅広い経験が必要とされる国政方針に沿い貢献できる人材の手助けを行っていきたくと考えます。



氏名 荒尾 賢

都道府県士会 岡山県

年齢 49

勤務先名称 岡山リハビリテーション病院

協会・士会役員歴

岡山県理学療法士会 理事 (平成20年度～現在)
日本理学療法士協会 代議員 (平成26年度～現在)

立候補の趣旨

この度、代議員に立候補致します荒尾賢(あらおまさる)と申します。私は平成20年より岡山県理学療法士会の理事として活動をさせて頂きました。その間、社会局の公益活動担当や社会局長を歴任し、岡山県民の皆様が理学療法の必要な情報を適切に提供するために一般公開セミナーや各種イベント等を企画、運営して参りました。公益活動を通じて理学療法、理学療法士の言葉自体は数年前に比べ一般の方々に浸透しつつあると感じています。現在ではメディアにも理学療法士が取り上げられる機会も増え、メジャーな職業になってきました。それはつまり、我々理学療法士が、社会に対してより重い責任性高いモラルを要求されていることにもなります。資格とは、免許を持たない国民に認められていない行為が可能になる事、つまり一般の国民にはない特権が付与されています。この特権は国民の信頼の上に成り立っています。この信頼を裏切る事のないよう、今一度、自分たちの襟元を正し社会に還元できる職能団体の一員として一層努力していきたいと思っております。また、地域包括ケアシステムの構築に向け、国から地方への責任、権限移譲がなされ自立的運営が推し進められています。その波に乗り遅れないためにも各都道府県士会のフレキシブルな動きが重要になってきます。ただ協会と士会がバラバラな動きでは統制が取れなくなり、理学療法士の活動や参入が各県で今以上にばらつきを生じます。協会の意向を汲み取りつつ士会が各自自治体に対して柔軟に対応しなければならなりません。そのためには協会と士会を結ぶ代議員の働きがより重要になってくると考えます。また、この地域包括ケアシステムのフォーマットは災害支援にも使えます。災害大国日本ではいつでもどこでも地震、土砂災害、水害等が起こるかわかりません。このフォーマットを使って被災住民を支援する仕組みづくりが必要になってきます。そこに我々理学療法士の力で避難所支援、地域復興支援ができるかと信じています。理学療法士の社会的立場や身分を保証するためにも理学療法士が社会的にも必要であることをよりアピールしていきたい、理学療法の啓蒙が図れたらと考えております。よろしくお願い致します。



氏名 武田 正則

都道府県士会 岡山県

年齢 52

勤務先名称 吉備高原医療リハビリセンター



氏名 酒井 孝文

都道府県士会 岡山県

年齢 42

勤務先名称 吉備国際大学保健福祉研究所

協会・士会役員歴

2000年～現在 (一社)岡山県理学療法士会 理事 (2013～副会長)
 2005～2006年 (公社)日本理学療法士協会 褥瘡対策委員会委員
 2009年～現在 中国ブロック理学療法士学会 学会評議員
 2014年～現在 (公社)日本理学療法士協会 代議員

協会・士会役員歴

平成27年6月～現在 一般社団法人 岡山県理学療法士会 理事

立候補の趣旨

私は、平成12年より(一社)岡山県理学療法士会にて理事を拝命し、微力ながら学術関係を中心にその任にあたってまいりました。現在は、社会の変革が進み生涯教育をはじめとした日本理学療法士協会の変革も必要となってきました。そこで私は、これまでの経験を基に会員の皆様方の期待に応えられるように、3期目の代議員に立候補することといたしました。現状では、いろいろと難しい課題も山積しておりますが、今後より一層頑張る精一杯職務を遂行していく所存であります。どうか皆様方のご支援のほど、よろしくお願い致します。

立候補の趣旨

この度、代議員に立候補させていただきます。
 私は平成27年度より岡山県理学療法士会で理事を務めさせていただいております。この3年間に、協会や士会のシステムがようやく理解できたと同時に、自分の力不足を痛感する日々となりました。
 今後も協会及び士会は、大きな変革の時期を迎えるようとしております。今求められるのは集団としての力です。しかし、同時に多様な価値観の共存こそが、協会の真髄と私は考えています。
 協会並びに岡山県士会の構成要員として理学療法士個人が存在しているのではなく、主体的な意思を持った理学療法士個人が集まってできる社会の一つの容として協会並びに岡山県士会があると私は思います。
 主体的な意思を持つ理学療法士が集まることが最重要課題です。
 そのためには、個の能力・技能の向上を基盤とし、さらには横へと連携を拡大していく必要があると思います。
 これらが可能となることで、一歩進んだ協会が出来上がると考えています。
 そして、岡山の理学療法士の声を協会に伝えることができるように努力していきます。そのために、岡山県士会員の皆様のお力を貸していただきたい。